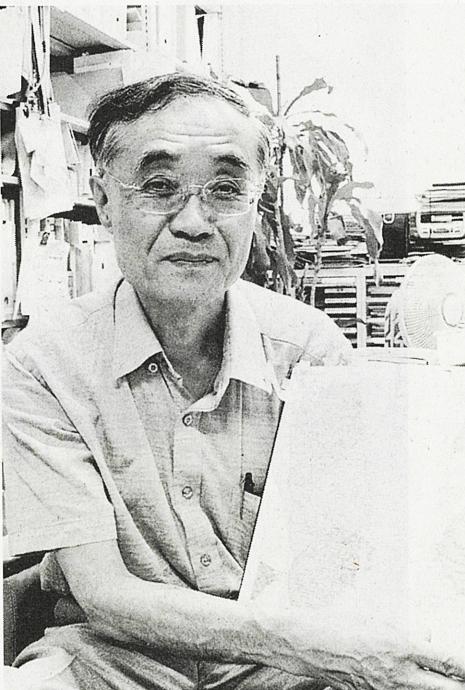


毎日新聞

9月17日(火)

2019年(令和元年)

城戸照彦さん(66) ベトナムで枯れ葉剤被害児を支援する



ベトナム戦争(1960~75年)中に米軍が散布した枯れ葉剤に含まれるダイオキシン類の

的な支援プロジェクトに取り組む。

2001年度に始めたベトナム

1953年、横浜市生まれ。金沢大大学院修了後、金沢医科大学助教授などを経て、97年から金沢大医学部教授。今春から同大客員教授。専門は公衆衛生学。ベトナムには30回以上渡航し、「海岸沿いの朝日が印象的です」。

いことを突き止めた。「汚染された環境は土壤を入れ替えれば改善するが、人の健康は一旦失うと回復しない。環境が良くなつても長期間、住民の健康状態を見ないといけない。負の遺産をきちんと継承しなければ感じた」と話す。

イタタイイタイ病と違って梯川の場合は因果関係などを明らかにする裁判が行われなかつたため、金錢的な補償はほとんど得られなかつた。約30年間、自身も健診に関わつたが、根本的な治療法はなく限界を感じることが多かつたという。

世代超える汚染に挑む

汚染地域で、住民の健康被害について約20年にわたって研究し

たのは、汚染の影響が世代を超

い」と話す。

研究者として歩み始めた19

80年代、カドミウムを含む廢

水が神通川下流域(富山県)